

スマートシティさいたま実行計画 (さいたま市)

ICTやビッグデータを活用し、東日本のネットワークの結節点としての連携・交流機能を強化し、質の高い市民生活を支え、多彩な交流を生み出す「スマート・ターミナル・シティ」を目指す。

取組概要

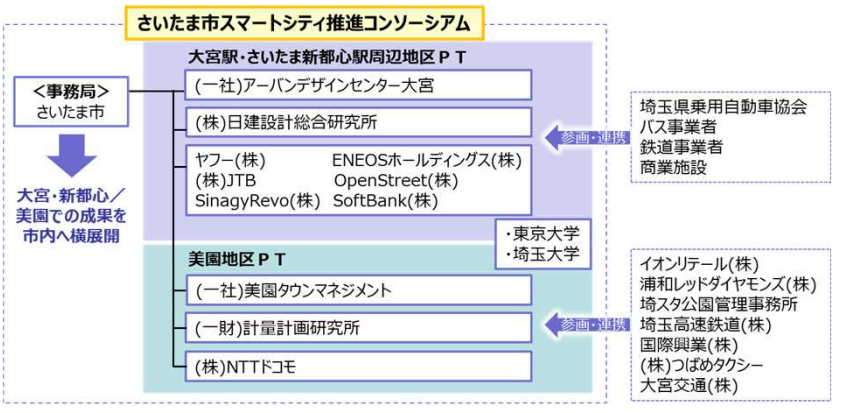
駅を中心としたスマート・ターミナル・シティの実現

「公・民・学」の連携によりAI等の先進技術やビッグデータを活用し、変容していくまちの状況に対応したモビリティサービスの充実を図りながら、都市インフラ整備に各種データを活用するスマート・プランニングを実践し、交通結節点とまちが一体となった都市空間・都市環境の形成を推進

- ①地域特性に応じたモビリティサービスの充実・高度化
- ②分野横断連携によるライフサポート型MaaSの構築
- ③スマート・プランニングによる最適インフラ計画

市内先行モデル地区での実践・成果を市内へ横展開

体制



目標

※今後、取得していくデータ等に基づいて設定する予定

対応する課題	目標・設定値 (令和7年度)
低炭素で質の高い生活環境を提供する市街地の形成	再生可能エネルギー・脱炭素型モビリティの導入量の増加
にぎわいや交流を創出する魅力的な都心・副都心の形成	ギアの導入 ・徒歩・自転車分担率の増加
暮らしや交流、活力を支える交通体系の構築	エリアの回遊性 ・シェアモビリティ利用回数 (540,000回) 向上 ・まちなかの滞留人口×時間の増加
	交通結節点の ・交通利便性が高いと感じる人の割合 (64%) 利便性向上 ・公共交通分担率の増加

将来像



スケジュール

先行モデル地区での検証結果を基に、市内他地区へ展開。 ※社会実装については見込み

	①モビリティサービスの充実・高度化	②ライフサポート型MaaSの構築	③最適インフラ計画	
大宮	・シェア型マルチモビリティの実証実験・整備	・各種モビリティ間連携 ・健康マイレージ実証	・シェア型マルチモビリティ実装(R6以降※)	・スマートプランニングへの活用・運用検討・運用 ・ライフサポート型MaaS実装(R6以降※)
美園	・AIデマンド交通実証実験	・MaaS実証実験 ・各種データ連携	・空間最適化	
共通PF	プラットフォーム検討	各種データ連携	スマートインフラへの適用	地区の連携 運用開始
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 R6年度～

※AIデマンド交通実装 (R6以降※)